

ゴミをへらす

じゅんがんだしゃがい
循環型社会

このページではゴミをへらし、限りある資源をくり返し利用する循環型社会のすがたと、その社会をつくるために商社が取り組んでいる活動を学びます。

じゅんがんだしゃがい
循環型社会を歩く

商社の取り組み 循環型社会を実現(じつげん)するために

○ クルマのリサイクル

日本では年間に360万台※の自動車廃車(はいしゃ)になっています。しかし自動車には、金属、タイヤなど、貴重(きちょう)な資源がたくさん使われていて、90%以上をリサイクルできます。商社では、それらの資源を国内でリサイクルすることをはじめ、1台の自動車を長く大切に乗りつづける人が多い外国には、取り外した中古パーツを販売するなど、自動車の3R(スリーアール)を進めています。



※出典: 経済産業省 自動車リサイクル法施行状況 2008
使用済み自動車台数

リサイクル率90%以上!クルマは走る資源

自動車はリサイクル素材のかたまりです。エンジンやモーターなどは中古部品として、タイヤは燃料(ねんりょう)として、ドアやボディなどは鉄やアルミとして、日本国内の自動車全体の80%がリサイクルされています。残り20%はシュレッダーダストという粉々(こなごな)の状態(じょうたい)となります。シュレッダーダストは、燃料や道路のほそ材料として使用でき、最終的には自動車の90%以上をリサイクルできています。

■ 自動車のリサイクル

部品・資源としてリサイクル		自動車リサイクル法の対象物品	
 エンジン・ボディ等	 シュレッダーダスト(廃車くず)	 エアバッグ類	 フロン類
中古部品として ● エンジン ● トランスミッションなど 原材料として ● タイヤ(ゴム) ● ボディ(鉄) など	● ウレタン・繊維 → 熱エネルギーとしてリサイクル ● ガラスなど → ほそ材などにリサイクル	● 安全に適正処理 ● 金属部分は資源としてリサイクル	● わがいの無害化 クルマのほとんどはリサイクルできるんだ

(クリックで大きくなります)

3年間で捨(す)てられるクルマは6分の1に

日本では数年前までたくさんの自動車が山の中などにこっそり捨(す)てられていて社会問題となっていました。しかし、2005年よりそれを取りしめる法律「自動車リサイクル法」がスタートし、シュレッダーダストと、カーエアコンに使用されるフロン類、爆発(ばくはつ)の危険(きけん)があるエアバッグ類を、リサイクルすることが義務づけられました。その

結果、捨てられる自動車の数は、3年間で21.8万台から3.5万台※と大きくへりました。

※出典：自動車リサイクル促進センター

商社が行っている「クルマのリサイクル」

商社では、自動車リサイクルを専門(せんもん)に行う会社を設立(せつりつ)し、自動車メーカーからの依頼(いらい)を受けて、使用済み自動車の解体(かいたい)から、鉄やアルミ、タイヤなどの資源の回収(かいしゅう)、フロン回収と処理(しより)、エアバッグ処理、シュレッダーダストの処理、中古部品の海外販売まで、自動車リサイクルに関するすべてを行っています。

商社が設立した自動車リサイクル会社は、日本における廃車処理台数(はいしゃしよりだいすう)の半分以上のリサイクルを行うなど、日本の自動車リサイクルを支えています。



自動車リサイクル工場

▲ページの先頭へ